

令和7年度 稲沢市地域自立支援協議会 第4回 権利擁護推進部会 議事要旨

【日 時】令和8年2月3日(火) 午後2時～午後3時05分

【場 所】稲沢市役所 第1分庁舎2階 第3会議室

【出席者】権利擁護推進部会委員 4名 事務局 7名

【欠席者】2名

あいさつ

1 協議事項

(1) 障害者虐待事案の対応検証(事務局から報告)

1) 虐待ケースの報告

委員A 推し活でお金を使ってしまう人が何人もいて、お金の使い方をみても依存症の傾向があり、この先どう支援していけばいいのかと思う。いろいろなストレスで、家族のお金を推し活に使ってしまうケースがある。通報すべきか悩む。

部会長 お金を取られた者が障害者ならば、通報すべきだ。

委員A お金を使ってしまった者も障害者であった。

部会長 介入すると少しはよくなるかもしれない。外部から介入しないとなかなかむずかしいと思う。

2) その他

・養護者に向けた、虐待防止(権利擁護)に関する取り組みについて

事務局 愛知県に、県として養護者による虐待防止に向けた具体的な取り組みの実施予定があるか問い合わせたところ、現時点ではないとの回答だった。

対象者の範囲が広く、実施が難しいため、県内の市町村で実施しているところを参考に付け加えるなどして取り組んでいただければとのこと。確認したところ、自立支援協議会の講演会で、虐待防止の内容のなかに養護者虐待が織り込まれたものはあったが、研修や交流会などで実施しているところは見受けられなかった。これについて、意見をいただきたい。

部会長 障害者虐待を防止するということで、施設職員のみならず、ご家族に向けても、やらなければならないのではないかと。自分の所属団体では、うつ家族教室というものを実施している。虐待防止というのではなく、うつ病のかたがいろいろな悩みを抱えて生活しているので、家族のかたが集まり、うつ病について基本的な話を聞いたあと、家族で話し合うということを中心にやっている。とても効果的で、参加者の満足度も割と高い。そういうやりかたはどうか。

障害種別やこども・大人などでグループ分けして、家族の体験発表のようなことがいいと思う。大きなテーマでいうと、障害者の家族教室というかたががいいのでは

ないか。

委員 A 私は放デイや早期療育などの現場にいる。障害があるなしにかかわらず、人として尊ばれる存在であるというところからスタートしないといけないと思う。

身近な事として話していかないと意味がないので、多くの苦悩を話していただく場所を作りながら、一方的に聞く講演ではなく、発散もできるような会だといい。

委員 B そのとおりだと思う。

座談会のように、これから子育てをする保護者などに対して実体験や失敗談などを語ったほうがよい。ただポスターを掲示したりするだけでは響かないと思う。

委員 A 父親からの身体的虐待が多いと思うが、障害のあるお子さんを授かると、ほとんど母親が現場を担う一方、父親も無関係ではない。以前は、父親が現場に出るにはまだハードルがあると感じていた。

しかし、現在は児童発達支援センターで土曜日のクラスができ、よくお父さんたちが送迎されると聞いている。以前に比べると保育園でもお父さんたちを見かけるようになった。父親も人とつながることにより、虐待防止につながると思う。今はネットで情報が得られるので、対面で話すことで思わず本音が出る機会が少ない気がする。

事務局 実施回数は、どの程度がいいか。うつ家族教室は年に2回と伺った。およそ半期に1回くらいでの実施とするか。

部会長 障害別にするのもいいのではないか。

事務局 重複障害があるかたもいるので、その点は考えなければいけない。

## (2) 障害者差別解消支援地域協議会としての取り組み（地域における理解促進等）

1) ケース報告（事務局から令和7年度のケースを報告） 意見等なし

年間ケース件数 4件

2) 周知啓発等について（事務局から令和7年度の事業報告） 意見等なし

①差別解消法関連チラシを関係機関に配布

②対応事例の収集の実施

③福祉まつり、障害者雇用フォーラムでの啓発

④部会内でケーススタディを実施

⑤差別解消法の啓発品を作成し、市民に向けて配布を実施

## (3) 性に関する取り組み

・講座事業の進捗について

委員 A 加害者を作らないために、すべてのこどもにもやっていかないといけない。

部会長 我々は障害者のほうへアプローチするが、一般のお子さんへのアプローチはどうなっているか。

委員A 障害者は約6倍性被害にあいやすいという情報もあるため、全員に知ってもらったうえで、障害者にはより知っていただきたい。

## 2 その他

- ・司法と福祉のネットワーク構築のための勉強会
- ・精神障害のある方への理解を深める  
～精神疾患の理解と支援のポイント「もしも〇〇と言われたら」～